



今の子どもVS昔の子ども パッチで勝負 みんなの楽園祭

みんなの楽園祭（町文化・スポーツ振興基金運営委員会、町文化連盟共催）が12月23日、ハブセブンショッピングセンターと町公民館で開催されました。

ハブセブン内で開催された同祭の昼の部「子どもたちの楽園祭」では、昭和の懐かしいおもちゃなどが多数展示されたほか、紙芝居や腹話術なども行われました。今の子どもと昔の子どもがパッチで一勝負する場面も。夜の部「大人たちの楽園祭」では、懐かしの青春ソングや生バンド演奏、お楽しみ抽選会などで会場は盛り上がりを見せていました。



迫力のある演奏に大きな拍手

新得中学校吹奏楽部、帯広吹奏楽団コンサート

新得中学校吹奏楽部（倉科美歩部長）と帯広吹奏楽団のジョイントコンサートが12月13日、同中学校で開かれ、約100人が来場しました。

コンサートは、同部が6月に同楽団の指導を受けたことが縁で実現。1部では、新得中学校が「小さな恋の歌」とクリスマスソングのメドレー、2部では、帯広吹奏楽団が「明日があるさ」など2曲、3部では54人の大合奏で「ラ・バンバ」など3曲が披露されました。迫力のある演奏に会場は大きな拍手で包まれました。



地域で自立して生活ができるように 障がい者地域活動支援センター料理教室

障がい者地域活動支援センター料理教室（北海道、北海道手をつなぐ育成会主催）が12月4日、保健福祉センターなごみで行われ、15人が参加しました。

料理教室は、年2回、心身に障がいがある方で料理の悩みを抱えている方々が地域で自立して生活していくことを目的に開催されています。

今回は、「鮭の野菜あんかけ」や「豚汁」など5品目を調理。参加者は協力し、手際よく調理を進めていました。



集めたリングブルで車椅子を寄贈

あいの郷ふれあいと屈足中学校が車椅子を寄贈

コミュニティハウス「あいの郷ふれあい」と屈足中学校が12月10日、養護老人ホームひまわり荘を訪れ、車椅子1台を寄贈しました。

あいの郷ふれあいでは、地域の方のために貢献したいと考え、平成9年からリングブルや牛乳パックを集め始め、平成15年からは屈足中学校と合同で行っており、平成22年にはわがふじ寮とやすらぎ荘に車椅子を寄贈しています。

「いつか車椅子を使う時が来るからありがたい」と利用者の方々は感謝していました。



スイッチを押す藤井水力部長

電源のまち パワー増強

北海道電力（株）新岩松水力発電所初回転・通水式

北海道電力（株）がかねてより建設を進めている新岩松発電所で14日、試験運転をするための初回転・通水式が行われ、北電や町、工事関係者ら約50人が参加しました。

式では、同社の藤井昭雄水力部長が通水始動開始宣言とともに制御盤のスイッチを押すと、発電機が回り始めました。

同社の新岩松水力発電所建設所の安部鐘一所長は「平成25年に着工してから2年5ヶ月間、無事故で迎えられた。1月末の本格運転開始に向けて試験を続けていく」とあいさつをしました。

来月1月27日に営業運転に移行する予定となっており、最大出力は旧施設の約1.2倍の1万6000キロワットに増強されます。



女子駅伝北海道代表として全国大会へ

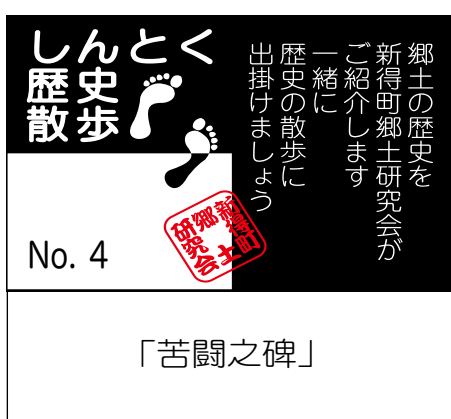
新得中3年伊藤穂乃佳さんが選ばれる

新得中学校3年生の伊藤穂乃佳さんが12月18日、町長室を訪れ、1月17日に京都府で行われる皇后杯第34回全国都道府県対抗女子駅伝競争大会への出場報告をしました。

11月22日に札幌市で行われた代表選考会で道内の中学生と競った中で1位をとり、見事、北海道代表選手として選ばれました。

伊藤さんは「代表に選ばれて嬉しかった。少しでも北海道代表として貢献できるように精一杯力を出しきたい」と意気込みを語りました。

また、浜田町長は「中学生で最後の大会だと思うので、有終の美を飾るように頑張って」とエールを送りました。



郷土の歴史を新得町郷土研究会がご紹介！

一緒に歴史の散歩に出掛けましょう

No. 4 「苦闘之碑」

狩勝高原エントロツコ鉄道の北側に旧狩勝線開拓「苦闘之碑」がひっそりと佇んでいます。昭和58年に新得町が町制施行50周年を記念して「字新内西5線140番地」に建てたものです。除幕式は新得町開眼式は新得町郷土研究会により行われました。

旧狩勝線を含む官設鉄道釧路線（旭川～釧路間）は明治40年9月8日に開通しました。道央と道東を鉄路で結び、大量の物資や旅客を運ぶ幹線として重要な役割を果たしました。しかし、1000分の25という急勾配を抱えていた旧狩勝線は輸送の近代化の足かせとなり、昭和41年10月に新線に切り替えられ廃止となりました。

昭和34年から同年40年にかけて行われた旧狩勝線の建設工事には、周旋屋により本州方面から騙され



昭和58年7月31日に行われた「苦闘之碑」の除幕式

たりして集められたタコと呼ばれた多くの土工労働者が従事していました。彼らは工事現場近くに建てた飯場（タコ部屋）に押し込められて、粗末な食事を与えられるだけで日の出から日没まで強制的に働かされたと言われています。栄養失調や病気になっても医者に診てもらえず、たくさんの方が命を落としました。一説には、土中に埋められたり、トンネルの人柱にされたりしたこの話も伝えられています。

新得町の発展に大きく貢献した旧狩勝線建設の裏面には、こうした苦渋に満ちた悲しい歴史がありました。

町では町制施行50周年を機に、旧狩勝線建設に従事した苦闘の末亡くなられた土工労働者の霊を慰めるため旧狩勝線近くの現在地に「苦闘之碑」を建立、昭和58年7月31日に開眼除幕式を行いました。以来毎年、新得町観光協会により慰霊祭が続けられています。